

## 表現BOX ⑦ 助動詞 do, be, have

do, be, have はそれぞれ「～する」「～である」「～を持っている」などの意味を持つ動詞だが、助動詞としても用いられる。

### 1. do

助動詞の do は主に、一般動詞の疑問文・否定文に用いられる。

Do you like tomatoes? ←疑問文で主語の前に出る

I don't like tomatoes. ←否定文で後に not がつく

他に、次のような用法がある。

#### ● be 動詞の否定命令文

Don't be shy. (恥ずかしがらないで)

#### ● 代動詞

She studies harder than I do. (彼女は私よりも熱心に勉強する)

do は study の意味で用いられる。英語は同じ単語を繰り返すことを嫌うので、このように前の単語の代わりに用いられる。代動詞と呼ばれる。

#### ● 動詞の意味強調 (p.362 参照)

He was there. I **did** see him. (彼はそこにいた。私は確かに彼を見た)

Do be quiet. (本当に静かにしておいてください)

### 2. be

be 動詞は、進行形・受動態で、助動詞の役割をする。

#### ① 進行形 (be 動詞+現在分詞)

The cute dog **is** barking. (かわいい犬がほえている)

#### ② 受動態 (be 動詞+過去分詞)

Was the door **locked**? ←疑問文で主語の前に出る

(ドアにはカギがかけられていましたか)

The door **wasn't** locked. ←否定文で後に not がつく

(ドアにはカギがかかっていなかった)

### 3. have

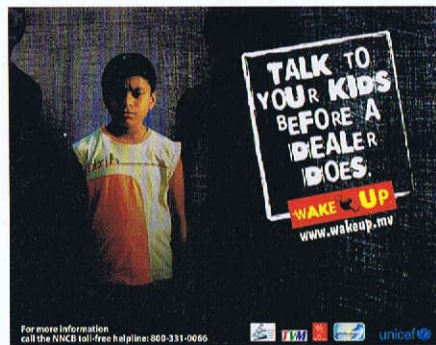
have は完了形 (have [has] +過去分詞) で用いられる。

Have you seen Ken lately? ←疑問文で主語の前に出る

(ケンに最近会いましたか)

I **haven't** seen him lately. ←否定文で後に not がつく

(私は彼に最近会っていない)



◀ Talk to your kids before a dealer does.  
(子どもと話しましょう。  
麻薬売人が話す前に)  
ユニセフのキャンペーンポスター

# 第6章 受動態

## イメージをつかもう

### 能動態と受動態



前の章までに数々の時制や助動詞を使った形など、動詞の様々な表現方法を学んできました。これらは主に「(…が)～する、～した、～したことがある、～できる」など、こちらから主体的に何かをする、という言い方です。

しかし、時にはこちらから何かをしかけるのではなく、相手から何かをされることもあります。街を歩いていて外国人に道を尋ねられることもあります。勉強を怠けていたら、学校で先生に叱られるかもしれません。そのような誰かに「される」という意味を表すときの表現方法を学びましょう。

① 先生がマイクを叱った。

② マイクが先生に叱られた。

人の目に映る光景は同じでも、2つの言い方があるのはなぜでしょうか？

同じ状況を、①は行為者に、②は行為の受け手に視点を当てて述べています。動詞で表現される出来事をどの視点に立って見るかを区別する形を「態」と言います。英語では2種類あり、「AがBに～する」と行為者を主語にする言い方を能動態、「Bが(Aに)～される」と行為の受け手を主語として表現する形を受動態と言います。

### 英語の受動態は (be + 過去分詞)

日本語では「～される」ですが、英語では受動態を (be + 過去分詞) という動詞の形で表します。上の例を英語にすると以下ようになります。

① The teacher **scolded** Mike.

動詞の過去形

能動態

② Mike **was scolded** by the teacher.

be 動詞の過去形 過去分詞

受動態

受動態に欠かせないのが〈過去分詞〉というものです。過去分詞は過去形に形が似ていることが多く、多くの動詞では、過去形と同じように、原形に-edをつけるだけです。ただし、不規則変化をする動詞はしっかり覚えておく必要があります。過去分詞形さえ把握してしまえば、受動態は決して難しくありません。主語の後に〈be動詞+過去分詞〉を続ければ、受動態の文になります。

### なぜ受動態を使うか？ その1

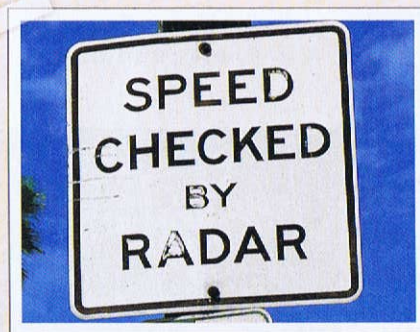


上の看板には、

Tobacco use **(is) prohibited** on school property.

(校内ではタバコの使用は禁止されています)

とあります。看板なので簡略化してbe動詞のisを省略しています。この文は受動態「～される」で表されています。逆にもしこれを能動態「～する」で表したらどうでしょうか。能動態だと「誰が～する」と言わなければなりません。でもこのような規則の場合、誰が禁止するか、わざわざ言う必要はありません。受動態はこんな場合にぴったりの表現方法です。下の例にも受動態が使われています。



Speed **(is) checked** by radar.  
(速度はレーダーによってチェックされています) (速度遵守を促す看板)



No Dumping (ゴミ捨て禁止)  
Violators **will be prosecuted**.  
(違反者は罰せられます)

また、次のようなケースもあります。

The diamond ring **was stolen**.

(ダイヤモンドの指輪が盗まれた)

この文も受動態です。この場合、誰が盗んだかわからないわけですから、「誰が」を言い表すことは不可能です。このような場合も受動態を使う必要があります。

### なぜ受動態を使うか？ その2



1 Your son is a little too naughty. He **broke** that window yesterday.

(お宅の息子さんはちょっと元気がよすぎるようです。昨日あの窓を割ったんですよ)



2 Look at that window. It **was broken** by your son yesterday.

(あの窓を見てください。昨日お宅の息子さんに割られたんですよ)

2つとも「息子が窓を割った」という同じ事実を表しています。でも、それぞれの文が伝えるメッセージは同じではなく、話題として提示されているものが異なります。1はまず **your son** を話題にして聞き手の注意を引き、続く文で彼について情報を付加しています。2は **that window** を話題の中心に置き、受けた被害について話を進めています。

このように、何を話題に(主語に)持ってくるか、何を中心にして情報を述べるかによっても、能動態と受動態のどちらが適切であるかが決まってくるのです。ですから、能動態と受動態は事実が同じならどちらを用いても同じというのではなく、それぞれの状況に応じて使い分けが必要が必要です。

## §53 必修

## 受動態の基本「～される」

116 John Smith built this house. [能動態] ジョン・スミスがこの家を建てた。  
 主語 目的語

117 This house was built by John Smith. [受動態]  
 be 動詞+過去分詞 この家はジョン・スミスによって建てられた。

## Point 1 能動態は「～する」、受動態は「～される」

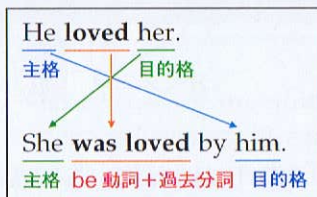
受動態は主語が動作を受けることを表す表現方法で、「～される」側に視点を置いた言い方である。それに対し、「～する」と主語が動作を行う表現を能動態と言う。

受動態のことを「受け身」と言うこともある。

能動態：「A が B を～する」 …動作をする A が主語  
 受動態：「B が A によって～される」 …動作を受ける B が主語

## Point 2 能動態→受動態

能動態の文を受動態に変えるには、次のようにする。



- 能動態の目的語 (her) を受動態の主語 (→ She) にする。代名詞の場合、her → She のように、主語にすると目的格から主格へと形が変わることがある。
- 能動態の動詞 (loved) を (be 動詞+過去分詞) にする。be 動詞は、受動態の主語の人称・数にあわせ、時制は能動態の動詞の時制にあわせる (→ 単数・過去なので was + loved)。
- 能動態の主語、つまり行為者 (He) は、明示する必要がある場合は by ~ の形にして文尾に置く (→ by him)。不要な場合はつけない。by の後は目的格になるので、代名詞の場合は He → him のように形が変わることがある。

## CHECK AND EXPRESS 53

下線を主語にした英文をつくりなさい。

- A good coach trains this team.
- A young man caused the accident.
- My brother washes this car once a week.

## §54 必修

## by ~をつけない場合

118 Spanish is spoken in this country. この国ではスペイン語が話されている。

119 This temple was built about three hundred years ago.  
 この寺は約300年前に建てられた。

## Point by ~をつけないことが多い

受動態は動作を受ける側に重点をおいた表現であるため、動作をする人 [物] (= 行為者) を表す by ~ はつけないことが多い。特に次の場合は by ~ を表さないのが一般的である。

a. 行為者が we, you, they, people など、漠然とした一般の人である場合 (→ 118)

118 → They [People] speak Spanish in this country.

b. 行為者が不明で、表せない場合 (→ 119)

This window was broken yesterday while I was out.

(この窓は昨日私がいないうちに割られた) (← 誰が割ったかは不明)

c. 行為者が文の前後関係から明らかで、表現する必要がない場合

The new supermarket was opened last month.

(新しいスーパーマーケットが先月開店した)

(← 開店したのは経営者であるが、特に表す必要はない)

注意 特に「誰が…するか」を伝えたい場合は by ~ をつける。

The steam engine was invented by James Watt.

(蒸気機関はジェームズ・ワットによって発明された)

Spanish は「スペイン語、スペインの」。  
 Spain は「スペイン(国名)」。

## CHECK AND EXPRESS 54

( ) 内の語(句)を並べかえて英文を完成しなさい。

- This hall is very big. It ( for / often / used / concerts / is ).
- This school is famous for language education. ( are / many languages / at / taught / this school ).



## ギモンのタネ (18) He is gone. の意味は？

be gone は (be 動詞 + 過去分詞) の形ではあるが、受動態ではなく完了の意味を表す。だから、He is gone. は「彼は行かれる(?)」ではなく「彼は行ってしまった(今はいない)」となる。

Is Mike here? — No, he was gone when I arrived.

(マイクはここにいる? — いや、僕が着いたときにはいなかった[行ってしまっていた])

この他にも finish など自動詞の過去分詞が be 動詞と結びつくと、このように完了の意味を表す表現になる。 → p.96 参照

I'll be finished in an hour. (1時間で終わるよ)

➔ be gone は「行ってしまった」「いない」の意味



## §55 必修

## 受動態の否定文・疑問文

120 The *Mona Lisa* was not painted by Picasso.

モナリザはピカソによって描かれたのではない。

121 Was this bag made in Italy?

このかばんはイタリアでつくられたものですか。

122 When was this bridge built?

この橋はいつ架けられましたか。

123 What was stolen by the thief?

泥棒に何を盗まれましたか。

受動態はbe動詞を使うため、否定文・疑問文はbe動詞の否定文・疑問文と同じ形になる。

## Point 1 受動態の否定文(〈be動詞 + not [never] + 過去分詞〉)

否定文は、be動詞の後にnot [never]を置く。

The *Mona Lisa* was painted by Picasso.

→ The *Mona Lisa* was not painted by Picasso. (→ 120)

This kind of spider is never seen around here.

(この種のクモはこのあたりでは見られない)

## Point 2 受動態の疑問文

a. 疑問詞のない場合：〈Be動詞 + S + 過去分詞 ~ ?〉

be動詞が主語の前に来る。do, does, didは使わない。

This bag was made in Italy.

→ Was this bag made in Italy? (→ 121)

Were these letters sent by your fans?

(これらの手紙はあなたのファンから送られたものですか)

b. 疑問詞が主語以外の場合：〈疑問詞 + be動詞 + S + 過去分詞 ~ ?〉

This bridge was built twenty years ago.

(この橋は20年前に架けられた)

→ When was this bridge built? (→ 122)

Where was the child found?

(その子はどこで見つかったのですか)

c. 疑問詞が主語の場合：〈疑問詞 + be動詞 + 過去分詞 ~ ?〉

「何が／誰が～される[された]のか」という疑問文の場合は、疑問詞が主語となる。

A ring was stolen by the thief.

(指輪が泥棒に盗まれた)

→ What was stolen by the thief? (→ 123)

Who is suspected by the police?

(誰が警察に疑われているのですか)

Italyは「イタリア(国名)」。Italianは「イタリア語、イタリアの」。

build(建設する)はbuild - built - builtと活用する。

【注意】 by～(誰[何]によって～されるか)を尋ねる場合は、〈Who + be動詞 + S + 過去分詞 + by～?〉または〈By whom + be動詞 + S + 過去分詞～?〉とする。ただし、By whomを文頭に置く形は文語的。

The telephone was invented by Bell.

(電話はベルによって発明された)

→ Who was the telephone invented by?

→ By whom was the telephone invented? [文語的]

(電話は誰に発明されたのですか)

## CHECK AND EXPRESS 55

[ ]より適当な語を選び、過去分詞にして( )内に入れなさい。

- This dictionary is not ( ) by many students now.
- What is this flower ( ) in English?
- What is ( ) in this factory?
- Who was this glass ( ) by?  
[ call / break / use / make ]



## ギモンのタネ (19) 受動態にできない文ってあるの？

受動態は主語が「～される」と何らかの影響を受けることを表す表現である。そのため、何の影響も受けないものを主語にして受動態で表すことはできない。次のような動詞は能動態では使えるが、受動態にはできない。

1) 所有を表す動詞など、人の意志が働かない場合

This hotel has 150 rooms. (このホテルには150室ある)

→ × 150 rooms are had by this hotel.

He lacks the talent for music. (彼には音楽の才能がない)

→ × The talent for music is lacked by him.

2) 相互関係を表す動詞

Kate resembles her mother. (ケイトは母親似だ)

→ × Her mother is resembled by Kate.

I don't think this coat becomes you very well.

(このコートはあなたに似合わないと思う)

→ × I don't think you are become by this coat very well.

➡ 所有のhaveなどは受動態にできない



## §56 必修

## 〈S+V+IO+DO〉の受動態

124 My uncle gave me this watch.

おじが私にこの時計をくれた。

→ I was given this watch by my uncle.

→ 私はおじにこの時計をもらった。

→ This watch was given to me by my uncle.

→ この時計はおじにももらった。

## Point IOを主語にするか DOを主語にするか

〈S+V+IO+DO〉の文型には、「～に(人)」と「～を(物)」の2つの目的語があるため、それぞれを主語にして2通りの受動態の文が考えられる。2つの受動態が可能な動詞には、次のようなものがある。

give(与える), lend(貸す), offer(提供する), pay(支払う), send(送る), show(見せる), teach(教える), tell(伝える)など

「～を(物)」を主語にした場合は、「～に」の意味を明確にするために、to～または for～を用いる。

Jill sent me this postcard. (ジルは私にこのはがきを送った)

→ I was sent this postcard by Jill. [人が主語]

(私はジルにこのはがきを送ってもらった)

→ This postcard was sent to me by Jill. [物が主語]

(このはがきがジルによって私に送られてきた)

/注意 「～を(物)」を主語にした文の to～/ for～

〈S+V+IO+DO〉を〈S+V+O+to [for]～〉に書きかえるときに to を用いる動詞は to を、for を用いる動詞は for をつける。

p.60 参照

History teaches us many things.

→ Many things are taught to us by history.

(歴史は私たちに多くのことを教えてくれる)

My aunt bought me this coat.

→ This coat was bought for me by my aunt.

(このコートはおばが買ってくれた)

/注意 〈S+V+IO+DO〉型の受動態は必ずしも2つできるわけではない。次の動詞は DO(物)を主語にするのが自然である。

make(つくってやる), read(読んで聞かせる), write(書いて伝える), do(してやる), get(取ってやる), cook(料理してやる), sing(歌って聞かせる)など

Mom made me a new sweater. (母は私に新しいセーターをつくってくれた)

→ ○ A new sweater was made for me by my mother.

× I was made a new sweater by my mother.

## CHECK AND EXPRESS 56

次の文意を下線部の語を主語にして表しなさい。

- 隣の人(the person next door)が私に贈り物をくれた。
- 母が私のためにすばらしいディナー(a nice dinner)をつくってくれた。

## §57 必修

## 〈S+V+O+C〉の受動態

125 We call this dog Ben.

私たちはこの犬をベンと呼ぶ。

→ This dog is called Ben.

→ この犬はベンと呼ばれる。

## Point 〈O+C〉のOを主語にする

〈S+V+O+C〉の文を受動態にするときはO(目的語)が主語となるため、C(補語)は〈be動詞+過去分詞〉の後にそのまま残る。補語は受動態の主語にならないため、補語が名詞の場合は、目的語と間違えないように注意する。

We call this dog Ben.

S V O C(名詞)

→ This dog is called Ben.

The news made us sad. (その知らせは私たちを悲しくさせた)

S V O C(形容詞)

→ We were made sad by the news.

(私たちはその知らせで悲しくなった)

call や make の他、keep, name, paint, leave, elect などの第5文型をとる動詞がこの形で用いられる。

The wall of this building was painted green last week.

(この建物の壁は先週緑に塗られた)

He was named John by his grandfather.

(彼は祖父によってジョンと名づけられた)

wall の all [ɔ:l] は all (すべて)と同じ発音。call(呼ぶ), tall(高い), fall(落ちる)も同じ。

## CHECK AND EXPRESS 57

( )内の語(句)を並べかえて、最初の文に続く英文を完成しなさい。

- She is always cheerful and smiling. We ( happy / made / by / are always ) her visits.
- These children have to do a lot of things. ( are / busy / they / kept ) all the time.
- The members of the new team had a meeting. ( captain / was / John / elected ) of the team.

## §58 必修 助動詞を含む受動態

- 126 The shop **will be closed** by the time we get there.  
その店は私たちがそこに着く頃には閉まっているだろう。
- 127 This room **must be cleaned** by tomorrow.  
この部屋は明日までに掃除しなければならない。

### Point 1 〈助動詞 + be + 過去分詞〉

〈be 動詞 + 過去分詞〉に助動詞が加わると、〈助動詞 + be + 過去分詞〉の形になる。助動詞の後は主語の人称にかかわらず常に原形 be になる。

- We can do this job in a week.  
→ This job **can be done** in a week.  
(この仕事は1週間でできる)

week(週)と weak(弱い)は同じ発音。

### 【注意】 否定文と疑問文

否定文は助動詞の後に not を置く。疑問文は助動詞を主語の前に出す。

- You will be invited to the party.  
→ You **will not [won't] be invited** to the party. [否定文]  
(あなたはパーティーに招待されないだろう)
- The machine can be fixed.  
→ **Can the machine be fixed?** [疑問文]  
(その機械を修理することができそうですか)

### Point 2 〈have to など + be + 過去分詞〉

助動詞に準じる表現の have to, be going to などを含む文の受動態も同様に、to の後ろを〈be + 過去分詞〉にする。

- This report **has to be finished** by Friday.  
(この報告書は金曜日までに仕上げねばならない)
- The Super Bowl **is going to be held** early in February.  
(スーパーボウルは2月上旬に行われる予定だ)

Super Bowl は全米プロフットボール優勝決定戦のこと。

### CHECK AND EXPRESS 58

次の状況に合うように、( )内に適当な1語を入れなさい。

- 先生は生徒に答えを英語で書くよう指示する。  
The answer ( ) ( ) ( ) in English.
- 総選挙の日程は次の日曜日である。  
The general election ( ) ( ) ( ) next Sunday.

## §59 必修 群動詞の受動態

- 128 A foreigner spoke to me on the train.  
→ I **was spoken to** by a foreigner on the train. 私は電車で外国人に話しかけられた。
- 129 A lot of people look up to him.  
→ He **is looked up to** by a lot of people. 彼は多くの人に尊敬されている。

### Point 群動詞は1つの動詞と考える

speak to(〜に話しかける)(→ 128), look up to(〜を尊敬する)(→ 129) など、動詞に前置詞や副詞を組み合わせて1つの動詞のような働きをするものを群動詞と言う。群動詞は目的語をとる1つの他動詞と考えて受動態をつくる。

→ p.507 参照

- They put off the game because it rained heavily.  
→ The game **was put off** because it rained heavily.

(試合は大雨のために延期された)

- We can't put up with his bad manners.  
→ His bad manners **can't be put up with**.

(彼の無作法にはがまんできない)

- My classmates made fun of me.  
→ I **was made fun of** by my classmates.

(私はクラスメートにからかわれた)

put up with ~  
「〜をがまんする」

make fun of ~  
「〜をからかう」

【参考】〈動詞 + 名詞 + 前置詞〉の形の表現で、名詞を much, little, no, good などの形容詞が修飾している場合、その名詞を受動態の文の主語にすることがある。

- You should take good care of the cattle.  
→ The cattle **should be taken good care of**.  
→ **Good care should be taken of** the cattle.  
(牛は世話を十分にやらなければならない)
- They paid no attention to what he said.  
→ What he said **was paid no attention to**.  
→ **No attention was paid to** what he said.  
(彼が言ったことには全く注意が払われなかった)

### CHECK AND EXPRESS 59

次の状況に合うように、( )内の語を並べかえなさい。

- 病気で寝ている家族の容態が悪化したとき。  
The doctor ( sent / must / for / be ) at once.
- 赤ちゃんから目が離せないとき。  
The baby ( after / should / looked / be ) all day today.

## §60 必修

## by 以外の前置詞を用いる受動態

130 The bucket is filled with water. バケツは水でいっぱいだ。

131 His name is known to most Japanese. 彼の名前はたいていの日本人に知られている。

## Point be filled with ~など

受動態では過去分詞の後ろに by 以外の前置詞を用いることもある。動作そのものをする人や物を表す場合は by を用いるが、それ以外は前置詞を使い分ける。(be 動詞 + 過去分詞 + 前置詞) をセットで覚えておくとよい。

be covered with (〜でおおわれている), be known to (〜に知られている), be filled with (〜でいっぱいである), be caught in (〔雨など〕にあう), be crowded with (〜で混雑している), be used [accustomed] to (〜に慣れている), be engaged in (〜に従事している), be dressed in (〜の服を着ている) など

The train was crowded with commuters.

(電車は通勤客で混雑していた)

I was caught in a shower on my way home.

(私は帰り道でわか雨にあった)

She was dressed in white.

(彼女は白い服を着ていた)

## !注意 be known to / for / as / by ~

be known の後には様々な前置詞が来る。131 の be known to (〜に知られている) と比較してみよう。

This town is known for its fine wine. [〜で有名だ]

(この町はおいしいワインで有名だ)

He is known as a novelist. [〜として有名だ]

(彼は小説家として有名だ)

A man is known by the company he keeps. [〜によって判断される]

(人はそのつき合っている仲間でおぼろげにわかる(ことわざ))

be used to の used は [ju:st] と発音する。

company は com- (一緒に) + pani (パン) から、「一緒にパンを食べる 間柄 → 仲間」の意味を表す。

机は木材をそのまま使っているのだから、一見して木でできているとわかる。一方、紙は加工しているのだから、木材の性質は残っていない。

## !注意 be made of / be made from

「…は〜からつくられる」と言う場合、be made of ~ は通常材料の質が変化しない場合に、be made from ~ は材料・原料の質が変化する場合に使われる。

This desk is made of wood. (この机は木製だ)

This plate is made of plastic. (この皿はプラスチック製だ)

Paper is made from wood. (紙は木からつくられる)

Cheese is made from milk.

(チーズは牛乳からつくられる)

## CHECK AND EXPRESS 60

( ) 内に入る適当な語句を下から選びなさい。

1. The climbers were ( ) heavy rain.

2. Butter and cheese are ( ) milk.

3. The concert hall was ( ) young people.

[ made of / made from / filled with / caught in ]

## 表現BOX 8 「~される」(動作)と「~されている」(状態)

受動態の文には「~される」と動作を表す場合と、「~されている」と状態を表す場合がある。動作か状態かの区別は文脈から判断する。

(a) The shop was closed by the clerk at 6 p.m. yesterday. [動作]

(店は昨日午後6時に店員によって閉められた)

(b) The shop was closed till 6 a.m. yesterday. [状態]

(店は昨日午前6時まで閉まっていた)

(a) は by the clerk (店員によって) があるので「閉められた」という動作を表すことがわかる。

(b) は till 6 a.m. (午前6時までずっと) から「閉まっていた」と状態を表すことがわかる。

「~される、された」と動作やそれによる変化を強調したい場合、be 動詞の代わりに get や become を用いることもある。

## ●動作…〈get [become, grow] + 過去分詞〉

Jim got hit by a golf ball.

(ジムはゴルフボールをぶつけられた)

Tom and Mary became acquainted at a dance.

(トムとメアリーはダンスパーティーで知り合いになった)

受動態で get を用いるのは口語に多く、get caught (捕まる), get arrested (逮捕される), get dressed (服を着る), get married (結婚する) などがよく使われる。

They are married.

(彼らは結婚している)

They got married ten years ago.

(彼らは10年前に結婚した)

また、状態であることを明確にするために be 動詞の代わりに lie や remain を用いることもある。

## ●動作…〈lie [remain] + 過去分詞〉

The fields lay thickly covered with snow.

(野原は雪で深くおおわれていた)

The problem remains unsolved.

(問題は未解決のまま)

## §61 必修

## 英語特有の受動態表現

- 132 We were surprised at his speech. 私たちは彼の演説を聞いて驚いた。
- 133 My sister is not satisfied with her new job. 姉[妹]は新しい仕事に満足していない。
- 134 A lot of people were injured in the traffic accident. 多数の人々がその交通事故でけがをした。
- 135 John Lennon was born in 1940. ジョン・レノンは1940年に生まれた。

日本語では「～される」とは表現しないが、英語では受動態で表す場合がある。

## Point 1 感情・心理を表す受動態

「驚く」「満足する」など人間の感情や心理を表現する場合、英語では受動態を用いるのが一般的である(→ 132, 133)。

be surprised at(～に驚く), be satisfied with(～に満足する), be disappointed in [at](～に失望する), be scared of(～を怖がる), be excited at [about](～に興奮する), be interested in(～に興味がある), be pleased with [about](～を気に入る, 喜ぶ), be delighted at [with](～を喜ぶ), be shocked at(～にショックを受ける), be worried about(～を心配する)など

surpriseは「驚かせる」, be surprisedで「驚かされる→驚く」となる。  
satisfyは「満足させる」, be satisfiedで「満足させられる→満足する」となる。

I was disappointed at the result of the exam.

(私は試験の結果にがっかりした)

They are worried about their mother's health.

(彼らは母親の健康を心配している)

The children are excited about going skiing.

(子どもたちはスキーに行くことにわくわくしている)

He is interested in the history of Italy.

(彼はイタリアの歴史に興味を持っている)

She is very pleased with the Christmas present.

(彼女はクリスマスプレゼントが大変気に入っている)

【注意】これらの表現は受け身の動作という意識はなく用いられる。過去分詞が形容詞化したものと考えられ、口語的にはveryで強調するのが一般的である。

He was very shocked at the news.

(彼はその知らせにとっても衝撃を受けた)

▶ p.476 参照

## Point 2 被害・病気・事故・誕生などを表す受動態

「災害・被害」「誕生・結婚」なども受動態で表す(→ 134, 135)。

be injured [wounded, hurt](けがをする), be born(生まれる), be killed(戦争・事故などで死ぬ), be married(結婚している), be delayed(遅れる), be seated(着席する), be drowned(おぼれ死ぬ), be damaged(被害を受ける)など

She isn't married. (彼女は結婚していない)

The train was delayed 20 minutes by the heavy rain.

(電車は大雨のため20分遅れた)

Please be seated. (どうぞお座りください)

My pride was hurt by his words.

(私のプライドは彼の言葉で傷ついた)

A cat was drowned in the flood.

(1匹のネコが洪水でおぼれ死んだ)

【注意】受動態の意味を持つ自動詞

能動態で「～される」という受動態の意味を表す自動詞がある。sell(売れる), read(～と読める), wash(洗える), cut(切れる), cook(料理される)などで、副詞(句)を伴うことが多い。

This magazine sells well. (この雑誌はよく売れる)

This sweater washes badly. (このセーターは洗濯がきかない)

This meat doesn't cut easily. (この肉は簡単には切れない)

best seller(ベストセラー)のsellも「売れる」の意味。



## ギモンのタネ(20) I was stolen my bicycle. はダメ?

「私は自転車を盗まれた」と言う場合、「私」を主語にして×I was stolen my bicycle. という誤りをよく見かける。だが、盗まれたのは「私」ではないからIを主語にした受動態は不可。この場合は、「自転車」を主語にして、

My bicycle was stolen.

とするか、(have [get]+O+過去分詞)「Oを～される」を用いて、

I had [got] my bicycle stolen.

とする。このように、(have [get]+O+過去分詞)は被害を表すときによく用いられる。

➔ My bicycle was stolen. とする



## CHECK AND EXPRESS 61

次の状況に合うように、( )内に適当な1語を入れなさい。

- 息子が試合に負けてがっかりしている。  
We ( ) ( ) at the result of our son's match.
- 津波で大きな被害を受けた町を目にした。  
This town ( ) seriously ( ) by the tsunami.
- 彼の説明に満足しているかどうか尋ねる。  
Are you ( ) ( ) his explanation?



## §62 必修 完了形の受動態

136 This room **has already been cleaned**. この部屋はすでに掃除されている。

137 We found that the game **had been canceled**. 私たちは試合が中止されたとわかった。

過去分詞の形は常に同じなので、受動態の時制は be 動詞の変化で表される。完了形の場合は have [has, had] been となり、その後で過去分詞がつく。

### Point 1 完了形の受動態〈have [has, had] been + 過去分詞〉

現在完了で主語が3人称単数の場合は、has を用いる(→136)。過去完了の場合は、be 動詞の部分が had been となる(→137)。

完了形 have [has, had] + 過去分詞  
+) 受動態 be 動詞 + 過去分詞  
→ have [has, had] + been + 過去分詞

By the time I got to the store, all the good ones **had already been sold**.

(店に着いたときには、いいものはみな既に売れてしまっていた)

### Point 2 完了形の受動態の否定文・疑問文

a. 否定文〈have [has, had] not been + 過去分詞〉

I **haven't been invited** to Mike's party yet.

(私はまだマイクのパーティーに招待されていない)

invite は「招待する」、  
invent は「発明する」。

b. 疑問文〈Have [Has, Had] + S + been + 過去分詞 ~ ?〉

**Have you ever been scolded** by that teacher?

(あの先生に叱られたことがありますか)

### CHECK AND EXPRESS 62

日本語の意味を表すように、下線部に適当な語(句)を入れなさい。

- この部屋は長い間使われていない。  
This room \_\_\_\_\_ for a long time.
- 科学は大きく進歩してきた。 \* 進歩する make progress  
Great progress \_\_\_\_\_ in science.
- 犬にかまれたことはありますか。 \* かむ bite  
\_\_\_\_\_ you \_\_\_\_\_ by a dog?

## §63 必修 進行形の受動態

138 My father's car **is being repaired**.

父の車は今修理中だ。

139 The room **was still being cleaned** when I entered it.

私が部屋に入ったとき、部屋はまだ掃除されているところだった。

### Point 1 進行形の受動態〈be 動詞 + being + 過去分詞〉

受動態の be 動詞が進行形の形、つまり〈be 動詞 + being〉となり、その後で過去分詞が続く。being の前の be 動詞が人称や時制により変化する(→138, 139)。

進行形 be 動詞 + -ing  
+) 受動態 be 動詞 + 過去分詞  
→ be 動詞 + being + 過去分詞

Elephants are still **being hunted**.

(ゾウは今もなお狩られている)

He **was being watched** at night.

(彼は夜監視されていた)

hunt のように u の後に子音が来るときは、たいてい u を [ʌ] と読む。  
sun (太陽)  
cut (切る)  
hug (ハグ) など。

### Point 2 進行形の受動態の否定文・疑問文

a. 否定文〈be 動詞 + not + being + 過去分詞〉

The matter **is not being discussed** now.

(そのことは今話し合われてはいない)

b. 疑問文〈Be 動詞 + 主語 + being + 過去分詞 ~ ?〉

**Is my proposal being considered?**

(私の提案は検討されていますか)

### CHECK AND EXPRESS 63

下線部を主語にした英文に書きかえなさい。

- Someone is following us. \* follow あとをつける
- They were broadcasting the news. \* broadcast 放送する

〈受動態の時制のまとめ〉

現在	am [is, are] + 過去分詞	現在完了形	have [has] been + 過去分詞
過去	was [were] + 過去分詞	過去完了形	had been + 過去分詞
未来	will be + 過去分詞	現在進行形	am [is, are] being + 過去分詞
* 助動詞	助動詞 + be + 過去分詞	過去進行形	was [were] being + 過去分詞

## §64 発展

## They say that ~. の受動態

- 140 They say that New York is a very exciting city.  
 → **It is said that** New York is a very exciting city.  
 → New York **is said to be** a very exciting city.

ニューヨークはとてもおもしろい都市だそうです。

They say that ~. (~だそうです, ~とされている), They believe [expect, think, etc] that ~など, 目的語が名詞節の場合は2通りの受動態が可能である。

## Point 1 It is said that ~

that 節を主語にするが, 形式主語の It を用いて that 節は後ろに置く。

They believed that the earth was flat.

→ **It was believed that** the earth was flat.

形式主語

(地球は平らだと信じられていた)

flat(形容詞)は「平らな」。flat は名詞で「アパート」の意味もある。

## Point 2 S+be said+to 不定詞

that 節中の主語を受動態の主語にする。that 節中の動詞は to 不定詞となる。

They believed that **the earth** was flat.

→ **The earth** was believed to be flat.

Q参考 that 節中の動詞が主節よりも前の時を表す場合, to 不定詞は〈to have + 過去分詞〉の形になる。 p.174 参照

They say that Marie Antoinette **was** beautiful.

→ It is said that Marie Antoinette **was** beautiful.

→ Marie Antoinette is said **to have been** beautiful.

(マリー・アントワネットは美しかったそうだ)

## CHECK AND EXPRESS 64

下線部を主語にした英文をつくりなさい。

- They believe that he is the best doctor in this town.
- They say that she keeps a snake as a pet.
- People expect that he will win the match.

## §65 発展

## 受動態が好まれる場合

- 141 The building **was damaged** by the big typhoon. そのビルは強い台風で被害を受けた。  
 142 My bicycle **was stolen** three days ago. 私の自転車が3日前に盗まれた。

## Point 受動態を用いるには理由がある

多くの場合, 能動態でも受動態でも同じ内容を表せるが, どちらを用いるのかは状況による。理由もなく受動態が使われるわけではない。

## a. 行為者よりも動作を受ける側に強い関心が持たれる場合

141 では主語 The building が影響・被害を受けたことに関心を引くため, 受動態が用いられている。

## b. 主語を変えずに文を続けたい場合

The actor arrived at the airport, and he **was immediately surrounded** by journalists.

(その俳優は空港に到着して, すぐに記者に囲まれた)

文の流れを自然にするため, 文頭に来る主語にはすでに話題になっているものが置かれる。文の前半と後半で同じ主語を続けるため, 文の後半で受動態が使われている。

## c. 行為者が不明な場合や, わざわざ言う必要のない場合(→142)

This magazine **is published** once a month. (この雑誌は月刊だ)

## CHECK AND EXPRESS 65

( )内の語を並べかえて英文を完成しなさい。

- 'Hair' and 'hare' ( the / are / same / pronounced ). \* pronounce 発音する
- This kind of flower ( everywhere / seen / in / is / Japan ).

## 表現BOX 9 &lt;be 動詞+過去分詞&gt;と&lt;be 動詞+現在分詞&gt;

「私は退屈だ」と「その映画は退屈だ」と言う場合, 日本語はどちらも同じ「退屈だ」を使うが, 英語はそうではない。

I'm bored. (私は退屈だ) [be+過去分詞]

The movie is boring. (その映画は退屈だ) [be+現在分詞]

動詞の bore は「(人)を退屈させる」の意味なので, I'm bored. は「私は退屈させられている」つまり「退屈である」となる。一方, boring は「(人)を退屈させる(ような)」の意味。「その映画は人を退屈させる(ような映画だ)」となる。

excite 「(人)をわくわくさせる」の場合は→ **be excited** (わくわくさせられる) / **be exciting** (わくわくさせる, おもしろい)となる。

We **were excited** at the news. (そのニュースに私たちはわくわくした)

Tennis matches **are exciting**. (テニスの試合はおもしろい)

このように, 主語が「人」またはそれに類する場合は〈be + 過去分詞〉を用い, 主語が「物」の場合は〈be + 現在分詞〉を用いる。



## 表規BOX 10 日本語の「～される」と英語の受動態

次の日本語はすべて「私、自分」を主語にした受け身の言い方である。このうち英語で“I”を主語として受け身で言えないのはどれだろうか。

- ① 昨日先生に叱られた。
- ② 学校から帰る途中で犬にかまれた。
- ③ 2歳の子どもに泣かれた。
- ④ 5年前に妻に死なれた。
- ⑤ 自転車を盗まれた。

①, ② はそれぞれ、

- ① I was scolded by the teacher yesterday.
- ② I was bitten by a dog on my way home from school.

と受動態で表現できる。それに対して③, ④, ⑤は英語では(I + be 動詞 + 過去分詞)という形では表現できない。これら5つとも、主語である「私」が「何らかの被害や影響を受けた」という意味合いは同じであるのに、なぜそのような違いが出てくるのだろうか？

③, ④の「泣く(cry)」「死ぬ(die)」は目的語をとる他動詞ではなく、自動詞である。そのため英語では受動態の言い方はない。

- ③ × I was cried ...
- ④ × I was died ...

⑤の「盗む(steal)」は他動詞であるが、盗まれたのは「私」ではなく「自転車」である。従って、

- ⑤ My bicycle was stolen.

という受動態ならば可能である。「私」を主語にする場合は、I had [got] my bicycle stolen.となる。▶p.145参照

英語の受動態は「他動詞によって直接動作を受ける、される物や人(動作の対象)」のみを主語にする。それに対して「る」「らる」を用いた日本語の受け身は、動作によって間接的に影響を受ける人間も主語にすることができ、しかも自動詞の受け身も可能である。以下のように説明できる。

- ③ 子どもが「泣く」ことにより「私」は影響を受けた。(困った、人の目が気になった、など)
- ④ 妻が「死んだ」ことで「私」は影響を受けた。(独り身になった、さびしい、など)
- ⑤ 「自転車が盗まれた」ことで「私」は影響を受けた。(困った、移動手段がなくなった、など)

日本語特有のこの受け身の特徴は、人が「悪影響」や「迷惑」を受けることを表す、という点にある。「家の南側にビルを建てられた」「彼はイチローにヒットを打たれた」なども同様である。こういった表現は間接受け身と呼ばれ、英語をはじめ西洋諸言語には見られないものである。日本語の「される」「られる」という言い方は、英語ではすべて受け身になるとは限らないことに注意すべきである。

## 特集 2

### 準動詞

不定詞・動名詞・分詞の3つをまとめて準動詞と言う。準動詞は「動詞に準ずる働きをする詞」、つまり動詞の性質をそなえているが、動詞ではないものという意味である。ここでは準動詞に共通する特徴や、動詞の違いについてまとめてみよう。

#### 1 準動詞の形

準動詞には不定詞(to不定詞, 原形不定詞)・動名詞・分詞(現在分詞・過去分詞)がある。to不定詞は<to + 動詞の原形>, 現在分詞と動名詞は<動詞の原形 + -ing>が基本の形である。例として、study(勉強する)の準動詞の形を示すと次のようになる。

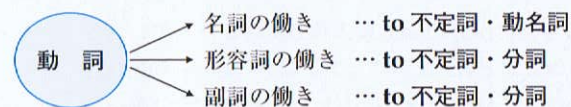
動詞の原形	study*
to不定詞	to study
動名詞	studying**
現在分詞	studying**
過去分詞	studied

【注意】\*原形不定詞(toなし不定詞)は動詞の原形と同じ形。

\*\*現在分詞と動名詞は同じ形。

#### 2 準動詞の働き

準動詞は「動詞の性質をそなえているが、動詞そのものではない」。もとは動詞であったものが、変化して他の品詞(名詞・形容詞・副詞)の機能を果たすようになったものである。



- 名詞の働き = 「～すること」の意味を表し、主語・補語・目的語などになる。
- 形容詞の働き = 名詞を修飾する・補語になる。
- 副詞の働き = 形容詞・動詞・他の副詞や文全体を修飾する。

### 3 準動詞と動詞

準動詞の特徴を動詞と比べてみよう。

#### 1 動詞と異なる特徴

##### ● 述語動詞にならない

「生徒たちが(今)プールで泳いでいる」という英文を書いてみよう。

○ Students **are swimming** in the pool.

× Students *swimming* in the pool.

現在分詞 *swimming* だけでは動詞になれない。

##### ● 名詞・形容詞・副詞として働く

一方、「プールで泳いでいる生徒たち」を表すには、上の *swimming* を使うとよい。

students **swimming** in the pool

名詞 ↑ 形容詞の働き

現在分詞の *swimming* は名詞を修飾する (= 形容詞の働きをする)。

##### ● それ自体は時制を表さない

動詞は現在形・過去形など形の変化で時制を表すが、準動詞はそうではない。

I want **to dance**. (私は踊りたい)

I wanted **to dance**. (私は踊りたかった)

過去形 → 過去の文でも形は同じ

##### ● 主語の人称・数によって形が変わらない

動詞は主語が3人称単数で現在のとき形が変わるが、準動詞は変わらない。

He wants **to dance**. (彼は踊りがっている)

3単現の s → 3単現でも形は同じ

#### 2 動詞に似た特徴

##### ● 目的語・補語・修飾語を伴うことができる

I enjoy **playing soccer**.

動名詞+目的語

(私はサッカーをして楽しむ)

基本的な準動詞の特徴を見てきたが、準動詞にはこれ以外にも様々な機能がある。くわしい内容については、第7章 不定詞、第8章 動名詞、第9章 分詞を参照してください。

## 第7章 不定詞

### イメージをつかもう

#### 私は灯台になりたい

I'd like **to be** a lighthouse  
All scrubbed and painted white  
I'd like **to be** a lighthouse  
And stay awake all night  
**To keep** my eye on everything  
That sails my patch of sea;  
I'd like to be a lighthouse  
With the ships all watching me.

私は灯台になりたい

雨風に洗われ、白く塗られた灯台に

私は灯台になって

一晩中目を覚ましていたい

私の光が届く海を航海する

すべてのものを見守れるように

私は灯台になって

すべての船に見つめられていたい

これはアメリカの女性詩人 Rachel Field (1894-1942) による、I'd Like to Be a Lighthouse という詩です。今では GPS などの機器の発達によって、その重要性は以前ほどではありませんが、灯台を見る人の心には様々な想いが浮かぶことでしょう。

ところで、この詩には、不定詞がいくつか出てきます。**to be** ~ と **to keep** ~ です。前者は「~すること」、後者は「~するために」と目的を表しています。

